

トピック(テーマ)		菅平十ノ原硫黄鉱毒反対運動と八ヶ岳硫黄鉱毒反対運動	
ねらい		<p>朝鮮特需による、硫黄需要の高まりから全国各地で硫黄採掘がおこなわれた。長野県では、1951年から上田小県の菅平十ノ原ではじまった試掘と1953年から佐久の八ヶ岳(硫黄岳)では採掘準備が始まった2か所があった。菅平十ノ原は、神川上流水源地で長村外1市9か村10万住民の飲用水、かんがい用水となっている。この水が鉱毒により汚染されることは10万人住民の死活問題になることから、採掘禁止地域指定とする運動を展開した。硫黄岳からの硫黄採掘は、採掘鉱毒による河川汚濁による漁業被害に対する補殖などを陳情した。前者は3年越し、後者は4年にわたる反対運動はいずれも住民と関係自治体の全面勝利になるという全国的に見て希有の例として評価された運動であった。地域住民・行政・県ぐるみの闘いなど生存権をかけた運動のあり方について学ぶ。</p>	
キーワード		堀込義雄 長村外一市九カ村鉱毒対策委員会 上田自由大学 土地調整委員会 『時報』(神川・神科など) 八ヶ岳硫黄鉱毒対策委員会	
概要を知るためのツール	1	書名	朝鮮戦争と長野県民
		著者名	新津新生／著
		出版社	信州現代史研究所
		出版年	2003
		内容紹介	朝鮮戦争が休戦協定を締結してから満50年に出版された本書は、「朝鮮戦争が日本なかんづく長野県にとって何であったのか」という視点から研究された大著である。この著書の「第三章 朝鮮戦争と長野県内の政治社会の動き」の「第二節 二つの硫黄鉱毒反対運動」で詳述している。文末の年表は、根拠史料もわかり、研究を深めるのに役立つ。
資料リスト	1	書名	南佐久農民運動史(戦後編)
		著者名	南佐久農民運動史刊行会
		出版社	社会福祉法人 長野若槻園
		出版年	1990
		内容紹介	最初に、硫黄岳から硫黄採掘準備が行われていることを知って、この問題を取り上げたのは日本農民組合南佐久連合会と佐久土地管理組合との合同役員会であった。1953年から1956年まで闘われた八ヶ岳硫黄鉱毒反対闘争は南佐久農民運動史に特筆大書すべき問題として、「第五章 八ヶ岳硫黄鉱毒反対闘争の展開」で、23頁にわたり経過と郡民大会、陳情、鉱区禁止地域請求、そして勝利の様子について記述されている。
	2	書名	神と人々の水 菅平鉱毒反対運動と夢のダム
		著者名	堀込藤一／著
		出版社	銀河書房
		出版年	1987
		内容紹介	上田自由大学に学んだ後、上田市長に登りつめた堀込義雄。小県郡神川村長時代に生じた菅平十ノ原硫黄鉱毒問題について詳述されている。土地調整委員会に「指定地域内において指定鉱物を掘採することは、適当でないと認められる」との鉱区禁止地域指定の裁定公示を出させた全国初の全面勝利の闘いの記録でもある。

	3	書名	清冽な流れ「神川」に生きて・父堀込義雄
		著者名	堀込藤一／著
		出版社	私家版
		出版年	2011
		内容紹介	長男藤一による父義雄記である。上田、佐久地方を中心に、校長、村長、市長、県会議員、農協組合長を経験し、地方自治と深くかかわった父義雄のものの考え方の原点は、「自由を尊ぶ大正デモクラシーの風潮と様々な社会改造の動き」であったと記している。この中の第8章「菅平で硫黄採掘が始まった」で、戦いの終始がまとめられている。
	4	書名	公文書 『昭和二十七年六月起 鉱毒対策事務関係綴 小県郡長村外一市九カ村菅平鉱毒対策委員会』 『昭和二十七年九月起 現地河川調査関係綴 小県郡長村外一市九カ村菅平鉱毒対策委員会』 『昭和二十八年 陳情関係重要書類 小県郡長村外一市九カ村菅平鉱毒対策委員会』など いずれも神川沿岸土地改良区所蔵
雑誌	1	論題名	上田自由大学受講者群像(1) —宮下周、堀込義雄の軌跡—
		著者名	長島伸一／著
		雑誌名	長野大学紀要
		出版年	2012
		巻号頁数	第33巻第2・3号合併号 27-42ページ
新聞	1	見出し	『朝鮮戦争と長野県民』出版
		発行機関	信濃毎日新聞 朝刊17ページ
		年月日	2004.1.14
	2	見出し	信州の60年安保 県内青年たちの活発な活動紹介
		発行機関	信濃毎日新聞 朝刊11ページ
		年月日	2010.5.25
コメント			2つの運動を同時に知ることや研究の糸口を見いだそうとするなら『朝鮮戦争と長野県民』がそれに応えてくれる。個別に研究をしたいとすれば、菅平十ノ原の場合は、『神と人々の水 菅平鉱毒反対運動と夢のダム』である。八ヶ岳硫黄鉱毒の場合は、一冊にまとめられた文献はなく、各自治体の公文書や自治体史(誌)を丹念に調査することになる